

平成24年度第4回

流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

1 開催日時

平成24年12月13日（木）

17時30分から19時10分

2 開催場所

流山市役所 庁議室

3 出席者

委員

恵会長、大津副会長、奈良委員、市岡委員、鈴木（美）委員、宮本委員、安藤委員、黒田委員、渡部委員、岩井委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、大久保委員

出席 14名・欠席 2名

4 議題

- (1) 地域密着型サービス事業所の選考について
- (2) 地域密着型サービス事業所の指定について
- (3) 地域密着型サービスの利用者からの相談について
- (4) 地域密着型サービスの運営基準等の条例化について（パブリックコメントの実施結果について）
- (5) 地域包括支援センターの職員変更について
- (6) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の予定事業者の事業所予定地の変更について（報告）
- (7) 流山市介護支援サポーター事業について
- (8) その他

5 議事（要旨）

・会長

本日の出席の状況報告。委員 16 名のうち欠席 2 名、14 名の出席で半数以上の出席により協議会が成立していることを報告します。

議題（１）について、事務局から説明を。

・事務局

議題（１）地域密着型サービス事業所の選考について

9 月 21 日から 10 月 26 日に公募した認知症対応型共同生活介護事業者の公募について、資料のとおり 2 事業者から応募があり 12 月 10 日に地域密着型サービス事業者選考委員会を実施し、選考基準に基づき公募申請書類審査とヒアリング審査により、総合評価により選考した。選考にあたっては、選考基準の 6 割に満たない委員が一人でもいた場合は、選考事業者として選考しないこととなっていた。今回は両事業者とも 6 割を満たしていた。選考委員会に引き続き開催した事業者選考会議において、委員全員の一致により評価点数の高かった株式会社ヘルシーサービスを選考した。今後所定の手続きにより事業者を決定し、事業者への通知、ホームページでも公表していく。

・議長

ただ今の報告について質問のある方。

・委員

グループホームは空室が多いのに、公募しているのはなぜか。なかなか入居者がいなくて経済的に苦労しているということもある。

・事務局

グループホーム 11 施設で 13 ユニット、定員 114 名です。12 月 1 日現在で 111 名の利用者いる。3 施設各 1 名の空きがあり、利用率は 97 % です。

今年新たに 3 施設が開設し、4 月当初は空きが多かった。このため市としても P R をするために、5 月から毎月グループホーム定員と利用状況の報告を頂き、ホームページに掲載している。

グループホームの設置については、第 5 期介護保険事業計画の中で 2 ユニット 18 名定員を新たに設置するという計画になっている。平成 24 年度に公募し平成 25 年度事業として 26 年 4 月開設を目指して公募に踏み切った。

・委員

2つの事業者の差の理由は公表できるのか

・事務局

2事業所にほとんど差はない。双方とも株式会社で、一番の違いは千葉県内に多くのグループホームを運営しているところと、グループホームの運営が事業者として2か所であるということです。

・委員

次点の事業所は広範に事業展開しており、基盤はしっかりしているのではないか。

・事務局

グループホームの運営実績が豊富であることでした。

・議長

この件については報告のとおりでよろしいか。

引き続き、議題（2）について事務局から。

・事務局

議題（2）地域密着型サービス事業者の指定について

前回の当運営協議会の中で、手続き中で承認いただいた。今回、書類が整い、事業所に訪問して管理者・計画作成担当者に面談し、指定基準を満たしていることを確認したことから、9月1日に遡り指定したことを改めて報告します。

・議長

この件についてご質問等のある方。

・委員

当施設と同グループの高齢者住宅が、書類がずさんで職員のレベルが低く入居者に問題があったということがあったが、グループホームは適切であるということであれば。

・議長

ではご意見を承ったということで、この件につきましてはよろしいか。引き続き議題（3）について事務局から。

・事務局

議題（3）地域密着型サービス利用者からの相談について

平成24年10月にグループホーム利用者の家族から相談があった。内容は、9月上旬の深夜に利用者が施設を抜け出し、翌日未明にケガ

をしていたところを発見され、救急車で病院に搬送された。10月中旬にも深夜に抜け出し、警察に発見されてパトカーで施設に戻ってきたが、その日の日中に足の痛みを訴えたため受診したところ、骨折が判明し入院して手術となった。

家族は、1度目はお世話になっている施設であるから穏便にと思ったが、2度目には管理者から「もう面倒見られない」と言われて、どうしてよいかわからず市に相談に来た。

1度目の時に、利用者は23時過ぎに市内の飲食店に一度来店し、翌日2時半頃に額から血を流して再度来店したため、飲食店の店員が警察と救急隊に連絡し所在が判明した。利用者の家族が、施設から利用者の不在の連絡を受けたのが0時30分頃だが、施設と飲食店の距離などの状況から、利用者は21時過ぎには施設を出ていると思われる。家族からの相談を受け、管理者を呼び事情を聞くとともに事故報告書を提出させた。施設側の利用者への対応及び人員配置に疑問があったが、職員の出勤簿等から、人員基準はなんとかクリアしていることを確認した。しかし、施設を訪問した際に、利用者の居室や職員トイレのドアに鍵が取り付けられている等、あってはならない事実を確認し、管理者に直ちに鍵を取り外すよう口頭で指導した。

事故については報告がなければ把握できないことから、グループホーム連絡部会において、他の施設に対しても事故報告書の提出の周知徹底を行った。

本件については、市として強い憤りを感じた。法令上問題がなくとも、利用者や家族に迷惑をかけ信頼を失ったという事実は否めない。市内の高齢者施設のイメージダウンとともに、本市の高齢者福祉施策についての姿勢が問われると考える。当該施設においては信頼回復のための努力をしていただくとともに、現在の利用者が今後も安心して生活できるよう、再発防止に向け部会でも注意を促していく。

・ 委員

徘徊する利用者がいなくなった時点で警察に通報しなかったのか。

・ 事務局

施設では、この利用者は日中もいなくなることがあり、帰ってくるだろうと考えていたとのことであった。夜間は2時間ごとに見に行くの

で、21時に出て行ったとしても23時には不在が判明するはずだが、警察が話を受けたのは午前0時過ぎであったと確認している。

・ 委員

施設が対応できないということは、たびたび出ていくからか、骨折したから受け入れられないのか。

・ 事務局

たびたび抜け出すということに対応できないという話であった。日中も何度も抜け出す間、人員配置を手厚くすることはできなかったのかという思いがある。

・ 委員

認知症という病気が徘徊することは多くの方が知っているはず。管理者は認知症を知らないのではないか、管理者を変えるべきではないかとさえ思う。認知症の方が被害を受けることは、管理する方の全責任だと思う。そこが理解されていないことが、管理者に問われるところではないか。

・ 委員

施設で夜間の施錠や点呼の時間は。

・ 事務局

21時消灯なので21時施錠と思われる。施設からは、施錠後に鍵を開けて出て行ったのであろうという話であった。

・ 委員

それでは施錠の意味がない。

・ 事務局

居室等への鍵の取り付けを「拘束である」ということさえ理解していない管理者である。

・ 委員

管理者は管理責任能力がなく、変えるべきではないか。

・ 委員

施設での転倒などの事故など、色々なことがある。通常の施設は真摯に家族やケアマネに報告と謝罪の文書があることが多い。利用者何人かに対して1人の職員ということになるので、ある程度のリスクはあると思うが、施錠した鍵を開けていくということは、認知症の方を世

話していくというところの基本がない。管理者に認識がなければ職員の認識も育たない。ハードではなくソフトが大事。万が一の事故に対しては真摯な対応が必要である。介護保険サービスに携わる全体の信用を落とすことで、同じ業界に働く者として残念に思う。

・ 委員

公募の次点の事業者に運営させてはどうかと思う。何度も同じことを繰り返すのではないか。

・ 会長

一番は再発防止という意味で、リスクマネジメントのチェックリストを作って指導体制を。制度を無にしないために重要で、流山の信用を落とし、他の施策のクオリティを落とし、他の努力を水泡に帰すような事態だと考えている。利用者や家族が嫌な思いをして我慢しているのは尋常ではない。市としても指定した立場で、再発防止のためのチェックリストをご検討いただければと、個人的には思う。

・ 事務局

早急にチェックリストを作成できるよう内部で検討します。

・ 委員

認知症という病気がどれほど理解されているかわからない。理解のされ方がバラバラで、皆が自分の知っていることは言えるが、全体像を把握していない。

施設の最も大事なことは、本人を軟禁状態にしている、その最大の利点は本人の安全が確保されるということ。屋内にいても骨折などの事故は起こり得る。しかし、本人の自由を犠牲にしても安全の確保が期待されているのに、出て行かせてケガをさせたとなると、家族として何のために入れたのかと思う。それが、施設としての信用を失ったことで、それを管理者はわかっていない。

・ 委員

老健や特養などの施設は、認知症の方をかなり見ているから職員がノウハウを持っている。そういうところを母体にしたグループホームは結構うまくいっている。介護が社会化からビジネス化になり、使命を忘れて何人入るといくらになると、算盤になってしまう。

母体が大きいことがいいと言うわけではないが、他の事業よりよいと

介護に参入したところは事故を起こす。

・ 会長

この場での議論が活かされるようにお願いしたい。

・ 部長

本日の議論は合理的に、冷静に整理した上で、市として厳格な指導をして参りたい。その結果はできる限り直ちに皆様にご報告したい。

・ 会長

ではこれはここまでとします。

議案（４）について事務局から。

・ 事務局

議案（４）地域密着型サービスの運営基準等の条例化について（パブリックコメントの実施結果について）

来年４月のスタートを目標に準備を進め、前回お示しした条例案に基づき１０月１５日から１１月１４日までパブリックコメントを実施したが、意見の提出はなかった。

今後は、パブリックコメントに諮った条例案に基づき手続きを進め、平成２５年３月の市議会で議案として最終的な審議を頂く。

地域密着型サービス事業者には今まで２回条例案の説明をしてきたが、１２月１７日に３回目の説明を実施し、条例案が議決を得た３月下旬に詳細な説明を実施する予定になっている。その後は、条例の実施に終わることなく、内容が事業者の皆様に取組んでいただけるよう運用を図っていく。

・ 会長

何度かこの会議でも諮ったことで、ただ今のご報告でよろしいか。

・ 委員

出来上がった文面に付け加えるのはなんだが、「安全に」という言葉を入れた方がいいのではないかと思う。

・ 事務局

本条例案は、市の最終案としてパブリックコメントでご意見を頂き、ご意見の中で変更が望ましければ市の内部で協議して変更するもので、手続きの流れから行くと、変更は難しいと思う。ただ、流山市独自の条例案の他の、厚生労働省令の中で防災の関係や衛生の関係で、利用

者の心身の安全を図るよう条文構成されている。実際の運用にあたっては安全第一ということで図っていききたい。

・ 会長

このことについてはよろしいか。

議案（５）について事務局から

・ 事務局

議案（５）地域包括支援センターの職員変更について

南部地域包括支援センターと北部地域包括支援センターの職員の採用で、平成２４年１０月１日からの新規採用で、事後報告となる。

南部地域包括支援センターの常勤専従の社会福祉士は、介護及び高齢者福祉の経験があり届出を受理した。

北部地域包括支援センターは退職した事務員の後任として、非常勤専従の事務員の採用の届出を受理した。

・ 委員

人員は問題ないと思う。地域包括支援センターは人が足りない。主任介護支援専門員は以前は人が少なかったが、千葉県でも毎年１００名以上誕生している。将来的には主任介護支援専門員も２名にした方がいいのではないかと考える。

・ 事務局

今後の考え方として、それぞれの包括支援センターにどの職種を何人配置するかということについては、地域性もあるため、運営する法人とも協議し最適な人員配置になるよう検討していききたい。

・ 委員

１名では、主任介護支援専門員に負担がかかっているので、現場から２名配置にしてほしいという声が上がっている。

・ 委員

人員はいずれ増員か増設となると思う。その時には１名は３職種確保して、地域性によってどの職種を増やすかは違いがあってもいいのではないか。

・ 事務局

その地域のニーズに応じて、法人とも相談して対応していききたい。

・ 委員

松戸は11か所包括を作るという噂がある。松戸は人口が多いが、流山は4か所で少ないと思っていた。主任介護支援専門員は介護保険の要で、増員するならまず主任介護支援専門員を増やすべきと思う。

・ 委員

包括の職員の増員について、地域性を踏まえて職員の増員についても検討していきたい。認知症の対応も検討しながら進めていきたい。

・ 部長

頂いたご意見について、市の最高決定機関である庁議の下で政策調整会議という個別の論題別の会議がある。介護保険制度や地域包括支援センターの配置や人員等についても、政策調整会議等に議題として上げ、財政問題も含めて市全体で考えていきたい。

・ 会長

職員の変更については、ご了解ということで。

ただ今の指摘については染谷部長のお話のとおりより良い方向でご検討頂きたい。

議題（6）について事務局からご報告を

・ 事務局

議題（6）定期巡回・随時対応型訪問介護看護の予定事業者の事業所予定地の変更について

医療法人社団なごみ会より9月13日付で、当初の事業所の設置予定地の建物の工期の遅れにより、来年4月の開設に間に合わない可能性があるため、事業所の場所の変更をしたいと相談があった。市として来年4月から事業を開始できるよう、変更後の場所を選定して報告することを条件に承認した。

なごみ会から設置予定地の報告があり、市として承認した。東初石の貸店舗を改修して事業を行うこと、あわせて変更予定地が市全域に30分で到達できることから、サテライトを設けず1か所で事業展開するという変更について承認した。

・ 委員

一社しかないなのでこの事業を成功させたい。2階建の2階を仮眠室、下を事務所と考えている。自宅で療養できる人を一人でも増やしたいと思うし、市としても理解してもらっていると思う。

- ・ 委員

他市を見てもなかなか手が上がらない。流山のこの事業が育つように応援したい。

- ・ 会長

この報告事項についてはよろしいか。

では、次の議案の報告を事務局から

- ・ 事務局

議案（７）流山市介護サポーター事業について

この事業は地域の高齢者が社会貢献をするとともに、介護予防が主体的に行われることを目的に、評価ポイントを交付金に変換する。初年度は３００名を目標とする予定している。

介護支援サポーターになるには、延べ２日間の介護支援サポーター養成講座を受講後に、個人で登録して行う。また、制度改正などがあった場合にはフォローアップ研修を予定している。サポーターがそれぞれ活動先に連絡を取り交渉するようになる。保険については全員加入とするが、個人負担とするか市の補助とするかは検討中である。

１時間の活動で１スタンプ、１日２スタンプまでとする。１スタンプを１００ポイントとして、年間５０００ポイントを上限として１０００ポイント単位で交付金に転換する。付与を受けたポイントのうち、１００ポイント単位は翌年度に限って繰り越すことができる。

活動の開始時期は４月１日をスタートと予定しているが、実際に活動開始できる時期は７月１日を目指している。４月から広報や地域を回っての説明会を予定している。

これまで、受け入れ事業所、ＮＰＯ法人、既存ボランティア等の説明会で出た質問等を資料に載せてある。４月１日の事業スタートを目指しているが、３月議会での承認を得た上でのスタートとなる。

- ・ 委員

松戸市や我孫子、柏はやっている。仕組みは同じ。自分が関係している介護サポーターがボランティアに来るのではなく、自分の所属しているボランティア組織の中で、何人かが介護サポーターになることを知っておく必要がある。個人情報はどうするかの研修、４０分で帰った場合にどうするか、休憩時間はどうするかなども課題。

サポーター受け入れ機関で、芸能披露や行事の運営補助や外出などの補助も活動内容に追加されればなおよいのではないかと。

・事務局

個人情報については、施設からも懸念する意見を頂いている。養成講座の時に、そこはしっかり守って活動していただきたいと伝えていく。時間については、受け入れ施設ともすり合わせていきたい。

活動の内容は、特技をお持ちの方の芸能披露などが必要な時もあると思う。内容は広げて具体的に入れていきたいと考えている。

・委員

意見の中で、介護サポーターの活動の趣旨と地域活動が混同されている。活動の対象を広げてはどうか。

・事務局

最終的結論ではないが。この事業は地域支援事業としてを介護保険料財源を使って実施することから介護現場に限ると考えている。在宅については活動の確認が難しいこと、双方の安全のため施設に限ると考えている。活動を広げることは他市や国の動向を確認して、最終的に4月までに決めたい。

・委員

有償ボランティアをやっている。100円であっても、お金にするのであれば1時間はきっちり1時間と明記した方がいい。

・会長

研修の中で、認知症の理解にどのくらい時間を割いているのか

・事務局

カリキュラムや講師はまだ白紙で検討段階。事例としては、医師会のご協力を頂き、介護支援ボランティア講座という6日間の講座をやっている。その中で高齢者の認知症を理解するという講座で90分持っただけだ。そのあたりが軸かと考えている。

・会長

そういうプログラムが市民が日常的に接する機会になったらいいと考えている。

・委員

市民一人ひとりに認知症を理解してもらいたいという思いが強い。地

域でのまちづくりの会の活動で市民の方が集まってくるのが、最も大事だと考えている。いろいろと呼ばれる機会が増えたが、市民に理解してもらうことが一番大事な仕事だと考えている。

・ 委員

対象が65歳以上だが、もっと若い人にも知ってほしいと思っている。将来的にはサポーターの年齢を広げ、小学校、中学校の多感な時期にやったら、高齢者に対する気持ちも変わるのではないかな。

・ 委員

先般も説明会をし、理解を得る努力をしていると認識している。ボランティアセンターとサポーター活動とは関係があり、どのようにこの事業を軌道に乗せていくか議論している。

ボランティアは長い間無償のボランティアとしてやってきたことが、これからはお金がもらえるということで戸惑いがある。いろいろな方に説明して理解して頂くよう、これからも努力していただきたい。

・ 委員

ポイントに関しては、民生委員として制度ボランティアとしてお手伝いしてきたが、ポイント制となるとどうだろうという意見もある。

・ 委員

先刻の施設の件について。市が認定して活動しているが、内容をチェックしていく、役所が主導をとってみていく状況を作っていく方が、利用者のためにも市のためにも、皆様から喜ばれるのではないかな。

・ 委員

ボランティアの4原則の社会性・自発性・継続性・無償性の部分は守った方がよいと思う。

・ 会長

社協での無償のボランティアも引き続き行う。無償のボランティアも続けながら、この制度も導入していくということでよいか。

・ 事務局

そのあたりがうまく説明できていないところ。

この事業の主眼は、余力があつて地域で何もしていない高齢者に、活動の中から思いがけない発見をし、その喜びから在宅ボランティアにつながったなど、将来的には自発的に地域活動に巣立っていただきたい

いということが大きな狙いである。既存のボランティアの方にも参加していただきたいが、それはメインではなく、今活動していない余力のある方が地域に巣立っていただくためと考えている。

・会長

全体を説明するのがあるとよい。市民に対しても説明を求められる時に、地図のようなものがあると楽ではないか

・委員

若い人にもボランティアをと言ったのは、外国では会社のトップ等はボランティアをしないと社会人として認められない。日本でも、ボランティア活動をするのが当たり前という素地を作ってほしい。そのために小さい時にやると活動が根付くのではないか。

・委員

学校教育の中でも問題があるかと思う。道德教育のあり方というものとはボランティアの高校では自己推薦でボランティアがポイントになることもある。

・会長

単位になるなら行くという学生が増えないよう、得るものが大きいという体験をしてほしい。この議案についてはご承認いただけるか。

では、事務局からその他として

・事務局

次回、第5回の運営協議会は、平成25年3月21日17時30分からを予定している。会場など詳細は後日通知します。

・司会

これをもって閉会とします